

SDGsに取り組む子どもたちの提案から ストローレス牛乳パックへ、1年で実現

プラ削減年間約5.6トン。提案が反映されることを学んでもらえた取り組み

- R3年 6月 ●6/12日経新聞に「給食の牛乳脱ストロー」の記事が掲載
 - 雪印メグミルクにストローレスパックの採用が可能か確認したが、「神奈川県の一括契約のため、各自治体個別の要望で対応は難しい」と回答
- R4年 2月 ●県の環境農政局畜産課(学乳所管)にも同内容を確認したが、「脱プラスチックの取組の予定はない」と回答
 - 県は、「学乳部会で、学乳制度を利用している県内市町村に脱プラスチックの意向調査をする予定」と回答
- 3月 ▶あまがさ裕治 令和4年第2回川崎市議会にて、牛乳ストローの削減について質問
 - 「脱プラスチックの取組であるストローレス化等について県やメーカーに働きかけるとともに、学校関係者や保護者代表等を委員とした学校給食運営連絡調整会議などの場で提案し、委員の皆様から御意見を伺いながら、SDGsの達成に向け積極的に検討する」と答弁
- 6月 ●学校給食運営連絡調整会議にて脱プラスチックの取組を進める旨を委員に周知。特に反対意見なし
 - 市としては市民や議会の声からストローレスパックの採用に積極的に取り組んでいくこととしているので、県給食会に採用について検討を依頼。県給食会から、正式な要望書の提出を依頼される
 - PTA連絡協議会の理事会にて説明。反対意見なし
- 7月 ●雪印メグミルクがストローレスパックの採用について川崎市から要望書を提出する旨を伝えたが、他都市からの反対意見なし
- 8月 ●要望書を県給食会に提出
- 10月 ●雪印メグミルク報告(ストローレスパック採用)
- R5年 2月 ●雪印メグミルク、サンプル提供・試験運用(教職員のみ・予定)
- R5年 4月 ●ストローレスパック供用開始(予定)

令和3年6月に「給食の牛乳の脱ストロー」の記事を読み、すぐに雪印メグミルクに採用が可能かどうかを確認したところ、「神奈川県の一括契約なので、川崎市だけという自治体個別の要望では難しい」との回答がありました。翌年2月に所管する県の環境農政局畜産課にも確認しましたが、「脱プラスチック予定はない」との回答でしたが、「県の学乳部会で市町村に意向調査をする」との回答も得ました。

ちょうどその頃、区内事業者のSDGsへの取り組みをマップにした「サステナブルマップ」を発表する「麻生区子どもSDGsフォーラム」が開催され、参加した市長、区長、事業者への子どもたちの質疑の中でも、「学校給食から、プラスチックを無くして欲しい」という提案がありました。

私は、令和4年第2回川崎市議会で牛乳ストローの削減について質問し、市から「ストローレス化などに



ついて県やメーカーに働きかける」と、SDGsの達成に向け積極的に検討すると答弁を得ました。

以降、学校給食運営連絡調整会議で提案、県給食会に採用検討を依頼、正式な要望書の提出を依頼され、PTA連絡協議会理事会での説明と、早いテンポで進み、雪印メグミルクからの県内他都市のヒアリングでも反対意見がありませんでした。10月にはストローレスパックの採用が報告され、令和5年4月から供用開始(低学年はストロー併用)予定です。

さっそく、提案した子どもたちに伝え、「こんなに早く実現してうれしい。これからもいろいろな提案をしたい」と成果を実感してもらえました。

新百合ヶ丘再開発の責任担当部署を 麻生区(麻生区役所含む)に設けることを市長に要望

22年12月の一般質問「鉄道延伸は順調」「二号再開発促進地域へ」確認

●あまがさ裕治 横浜市高速鉄道3号線の延伸における鉄道事業許可取得の進捗状況や、環境影響評価方法書の手続きの進捗は？

■まちづくり局長 鉄道事業許可取得については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っている。また、環境影響評価は、横浜市環境影響評価条例に基づく「配慮書」の手続きを令和2年度に実施し、「配慮市長意見書」を踏まえ、「方法書」の手続きに向けた準備を進めている

●あまがさ裕治 現在、延伸検討に伴う追加の土質調査の実施が現在5箇所で行われている。この5箇所の追加調査地点をたどると、近接道路である都市計画道路尻手黒川線の位置関係などから、延伸のルートも推測することができる。事務作業の進捗に合わせて新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりも本格化していくタイミングをむかえている。あわせて新たなスーパーの建設計画で変化する周辺の道路渋滞も加味して影響を考える必要が出てきた。これらの課題を複合的に調整するための民間事業者や市民意見の聴取は、どのように進んでいるのか？

■まちづくり局長 意見聴取等の進捗については、現在、地権者の方々や新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムなどの意見交換を継続するとともに、2022年11月27日及び12月1日には、主要な交差点において交通量調査を実施するなど、交通環境の改善等に向けた調査・検討している。12月1日からは、根幹的な都市計画の方針である「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等の見直しの基本的な考え方(案)を示し、パブリックコメントを募集している。今後は、意見を反映するとともに、当該地区のまちづくりに関する検討を深度化していく

●あまがさ裕治 答弁で検討の深度化とあるが、意味するところは「二号再開発促進地区(戦略的に再開発を進める地区)」に格上げされることだとわかった。このような行政側の意向が市民には伝わらずに、地元の地権者や関係者の皆さんからは北口の再開発についてはなかなか表面化しないとの声も上がっている。「なんとかしても川崎市へ促進をしてもらいたい」との思いの中で要請活動の動きがあると聞いているが、副市長の見解は？

■副市長 新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくりについては、豊かな自然環境や芸術文化等の地域資源などを活かした魅力ある広域拠点の形成が求められおり、横浜市高速鉄道3号線延伸に伴う周辺環境の変化や、駅北口周辺の低未利用地等における土地利用転換の動向などに機動的に対応することが重要だと認識している。北口のまちづくりについては、これまで、地権者等との意見交換を実施してきた。今後も引き続き、広く市民の皆様のご意見を伺いながら、都市機能の更なる集積や交通環境の改善等について、ハード・ソフト両面から総合的な検討を進め、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」やまちづくり方針の策定とあわせ、着実に取組を進めていく

市長に要望と提案を行いました

副市長からは着実に北口に対する取り組みを進めていくとの答弁がありました。市長には地権者のみならず、区民にも行政の本気度を理解してもらうためにも、麻生区内や麻生区役所内に「再開発を担う行政側の窓口」を置くことを強く要望いたします。

郵便はがき

215-8790

料金受取人払

麻生局承認

1257

差出有効期間
2024年12月
31日まで

(受取人)
川崎市麻生区高石
3-27-4

あまがさ裕治
事務所行



あなたのご意見をお寄せください

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市
	TEL ()